

- ・診療現場で日常的に遭遇する倫理的に価値判断が困難な事案について、相談・検討
- ・臨床倫理委員会において審議に資する情報の集約・収集

- ・診療に関する倫理的に重要な事案
- ・社会的影響が懸念される事案

**【メリット】**

「日常的に起こる倫理的に価値判断が困難な案件」について、組織として十分に検討を行ったことを明らかにした上で、医療を提供することができる。

**臨床倫理コンサルテーションチーム  
(多職種協働)**

事務局長は、事案ごとに下記の要件を満たすメンバーを「候補者名簿」等から選出。また、メンバーの中から、世話人及び記録者を指名。

- ・ (1) から (3) 必須
- ・ (4) から (8) 必要に応じて

- (1) 依頼者
- (2) 当該患者を主に担当する診療科の医師及び看護師  
それぞれ1名以上  
依頼者が、医師又は看護師の場合、当該メンバーを兼ねることができる。
- (3) 当該患者に関与していない医師及び看護師 ★  
それぞれ1名以上（いずれも、一定以上の診療経験を有し、指導的立場にある者、もしくはそれに準ずる者であること。）
- (4) 心理系のスタッフ ★
- (5) MSW ★
- (6) 倫理、法律の専門家 ★
- (7) 行政担当者（児童相談所、警察等）
- (8) その他、必要と認める者 関係者

★：「候補者名簿」より選出

③ 報告  
(世話人)

必要時、  
臨床倫理委員会に  
諮る

④ フィードバック

診療科長の確認

九州大学病院臨床倫理委員会

倫理的  
事案発生

各診療科で  
検討

診療現場における  
日常的な価値判断  
が困難な場合

① 依頼

② 調整

⑥ 結果報告

コンサルテーション事務局

倫理的に重要な案件の場合

**【事例①】**

抗がん剤治療の効果が高く期待できる小児がん患者において、家族から抗がん剤治療を中止し、漢方での治療を希望されている事例。

**【事例②】**

心停止で搬送され、現在低酸素性脳症の小児について、家族から治療中止の希望が出ている事例。

この件に関するお問合せ： ARO次世代医療センター 特任講師(倫理担当) 河原 (内線 4775)  
研究支援課 倫理審査係 係長 河野 (内線 5082)